

英語5技能教育特別部会(東日本エリア) 実施報告

一般財団法人日本私学教育研究所 主催／日本私立中学高等学校連合会 後援

国においては、グローバル化への対応の一環として、小・中・高等学校等を通じた抜本的な英語教育改革を推進しています。これを受け、大学入試の英語でも4技能の総合的な評価が拡大しており、各学校においてはこれらへの対応は喫緊の課題です。さらに、欧州評議会が作成した外国語学習者の言語能力を図る参照基準 CEFR では、学習者の自己評価においてコミュニケーションの形態を5技能に分類しています。

そこで当研究所では、私立学校の英語教育担当教員の指導力強化を図るため、5技能教育に係る特別研修事業を令和5年度に引き続き、東日本エリアと西日本エリアで実施致します。

◆ 会 期 ◆

令和6年5月28日(火)・29日(水)

◆ 会 場 ◆

5月28日(火) : 文化学園大学杉並中学・高等学校

〒166-0004 杉並区阿佐谷南 3-48-16

(JR「阿佐ヶ谷」「荻窪」駅、東京メトロ「南阿佐ヶ谷」駅から徒歩約10分)

5月29日(水) : ビジョンセンター市ヶ谷

〒102-0074 東京都千代田区九段南 4-8-21 山脇ビル 3F

(東京メトロ・都営地下鉄「市ヶ谷」駅 A2 出口直結、JR「市ヶ谷」駅から徒歩約2分)

◆ 参加者数 ◆

46名

◆ 参加対象 ◆

英語科教員 ※参加対象校は、都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校

◆ プログラム ◆

学校視察

視察校 文化学園大学杉並中学・高等学校

●視察校 実践発表

テーマ 「文化学園大学杉並中学・高等学校の英語教育」

発表者 大久保 素子 文化学園大学杉並中学・高等学校国際部部長

●研究協議

文化学園大学杉並中学・高等学校の英語科の先生方を交えて意見交換を行います。

Workshop

テーマ **Teaching reading skills to Senior High School students**

講 師 **Ross Malcolm** ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー

The focus of reading tests such as the Common Test for University Admissions has changed in recent years, with candidates expected to read a larger volume of text at higher speeds and be able to compare ideas and transfer information between texts and graphs. This places a high burden on students reading fluency, their reading stamina and their working memory. This session will focus on how to support SHS students with these challenges.

Aim: Participants better understand key reading skills necessary for Senior High School students and be able to model and teach them in their classes.

Participants will:

- Understand basic concepts in teaching reading
- Experience explicit, interactive reading-skills lessons as students
- Focus on helping students understand and discuss the ideas and information they read about in texts

◆ 日 程 ◆

時刻	9		10		11		12		13		14		15		16		
	30		20	50	30	35	20		10	55	25	30			10	40	
5月28日 (火)		受付	開 会 式	視察校 紹介	視察校 実践発表		授業視察 (4限)	昼食		授業視察 (5限)	施設 見学		Workshop Session1 (90分)			研究 協議	
時刻	9		10		11		12		13		14		15		16		
	30					30		30				30	40	10	30		
5月29日 (水)			Workshop Session2 (120分)				昼食		Workshop Session3 (120分)					研究 協議	閉 会 式		

◆ 日程表 ◆

【1 日目】 5 月 28 日 (火) 〔会場 文化学園大学杉並中学・高等学校 新館 2 階 コンベンションホール〕

9:30-10:00	受付〔新館1階 入口〕
10:00-10:20	開会式 司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長 ◇開会 ◇主催者挨拶 吉田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所理事長 ◇視察校代表挨拶 松谷 茂 学校法人文化杉並学園理事長 ◇研修会運営方針説明 平方 邦行 英語5技能教育特別委員長 ◇日程説明 大久保 素子 文化学園大学杉並中学・高等学校国際部部長 ◇閉式
10:20-10:50	視察校紹介 司会 大久保素子 英語5技能教育特別委員 青井 静男 文化学園大学杉並中学・高等学校校長
10:50-11:30	視察校実践発表 大久保 素子 文化学園大学杉並中学・高等学校国際部部長
11:35-12:20	授業視察(4限) 中学1年生から高校3年生までの英語の授業や、英語による他教科の授業を視察します。 ※貴重品以外の荷物は会場に残していただいて差し支えございません。 ※授業視察終了後は会場の新館2階「コンベンションホール」にて昼食となりますのでお戻り下さい。
12:20-13:10	昼 食
13:10-13:55	授業視察(5限) 中学1年生から高校3年生までの英語の授業や、英語による他教科の授業を視察します。 ※貴重品以外の荷物は会場に残していただいて差し支えございません。 ※授業視察終了後は施設見学を行いますので、会場の新館2階「コンベンションホール」にお戻り下さい。
13:55-14:25	施設見学 文化学園大学杉並中学・高等学校教員
14:30-16:00	Workshop Session1 司会 佐藤 貴明 英語5技能教育特別委員 <Foundation session: English for teachers> 講 師 Ross Malcolm ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー
16:10-16:40	研究協議 コーディネーター 佐藤 貴明 英語5技能教育特別委員

【2日目】 5月29日(水) 〔会場 ビジョンセンター市ヶ谷 3階 305〕

9:30-11:30	Workshop Session2 司会 岩瀬 俊介 英語5技能教育特別委員 <Pedagogy session: Teaching reading at Senior High School: Demonstration + analysis> 講師 Ross Malcolm ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー
11:30-12:30	昼 食
12:30-14:30	Workshop Session3 司会 岩瀬 俊介 英語5技能教育特別委員 <Pedagogy session: Teaching reading at Senior High School: Workshop + Micro-teaching> 講師 Ross Malcolm ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー
14:40-15:10	研究協議 コーディネーター 中川 千穂 英語5技能教育特別委員
15:10-15:30	閉会式 司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長 ◇開式 ◇総括 中川 千穂 英語5技能教育特別委員 ◇挨拶 平方 邦行 英語5技能教育特別委員長 ◇閉会

◆ Workshop 概要 ◆

テーマ Teaching reading skills to Senior High School students	
5 月 28 日 (火)	
Session 1 14:30-16:00 (90 分)	Foundation session: English for teachers It's helpful for teachers to re-experience language lessons from the perspective of their learners. This session will focus on English for teachers, using a challenging reading text at C1 level. The text will deal with a contemporary topic. Teachers will actively participate as learners in a lesson with the following features. ・Content-led approach to reading ・Scaffolding of challenging features of the text ・Focused, interactive discussions based on the text ・Review of key language features from the text. Following this experiential session, teachers will be well prepared for Day 2's explicit focus on reading pedagogy for SHS students.
5 月 29 日 (水)	
Session 2 9:30-11:30 (120 分)	Pedagogy session: Teaching reading at Senior High School: Demonstration + analysis Model lesson, based on a typical SHS reading text. Focus on the following teaching and learning strategies. ・Local and global understanding of the text ・Building a text model ・Comprehension-monitoring ・Inferencing ・Teacher scaffolding
Session 3 12:30-14:30 (120 分)	Pedagogy session: Teaching reading at Senior High School: Workshop + Micro-teaching Teachers will workshop a reading lesson with a shared text, incorporating key features of the morning session. Following this, teachers will micro-teach a part of their lesson in small groups.
Discussion 14:40-15:10 (30 分)	Discussion (研究協議) Opportunity for participants to discuss topics raised over the course of the training.

◆ 講師プロフィール ◆ Ross Malcolm ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー

タイ、マレーシア、南アフリカなどでの教師や試験対策を含め様々な年代に対する指導を経て、2015 年から日本の文部科学省や教育委員会等の教員研修で講師及び教材開発を担当。修士 (チチェスター大学)。専門は、外国語教師の専門性の向上。高等学校英語コミュニケーション用検定教科書「ENRICH LEARNING I, II, III」(東京書籍)の編集協力者。

ブリティッシュ・カウンシル 英語教員研修トレーナーは全員 CELTA 及び DELTA 保持している (あるいは同等)。CELTA (Certificate in Teaching English to Speakers of Other Languages)、DELTA (Diploma in English Language Teaching to Adults)はいずれもケンブリッジ大学英語検定機構が授与する英語教授に関する国際資格。CELTA は、世界中にある TESOL/TEFL の資格の中でも、最も広く認められ高評価を受けており、知識・理論面と同様、実践面も重視。DELTA は英国の公的な資格・試験監査機構 Ofqual によってレベル 7 (大学院修士号と同等資格)として認定。

◆ 学校紹介 ◆ 文化学園大学杉並中学・高等学校 <理事長 松谷 茂 / 校長 青井 静男>

1926 年、城右高等女学校として創設。1974 年に文化女子大学の附属となり、2011 年に大学の校名変更に伴い現校名に改称、2018 年に共学化した。建学の精神は「感動的教育」で、「燃えよ! 価値あるものに」をモットーに、生徒一人ひとりが燃えるものを見つけ、とことん打ち込み、いきいき輝くよう応援している。附属校としての強みを生かして「Arts: 芸術 (創造性を豊かにする力)」分野も融合させた「STEAM」教育を行い、教科の枠を越えた様々な課題解決学習に取り組んでいる。生徒は 1 人 1 台 ICT 端末を所持し、プレゼン・協働学習・仮説検証などを通じて新しい価値あるものを創造していく。また、中間考査を廃止し、海外先進校と同様に毎日の授業への取り組みとその学習成果が重視される環境下で、生徒たちは授業に対する熱意を高めている。

◎ダブルディプロマコース

2015 年にはカナダ・ブリティッシュコロンビア州の海外校として認可され、Bunka Suginami Canadian International School (BSCIS・ダブルディプロマコース)を開校、2022 年には中学のダブルディプロマコースを開校した。2023 年度入学生 125 名のうち、およそ 83%が 1 年次からカナダのカリキュラムを学んでいる。高校ダブルディプロマコースは日本とカナダの両校の卒業資格が取得できる日本初のコースで、文化の異なる 2 つのカリキュラムを学ぶことで複眼的・多面的な思考力を養うことができる。ダブルディプロマコースを中心に世界で活躍できる人材を輩出している。

◎英語教育

最大の特徴は、年間 200 時間を超えるネイティブスピーカー主導型授業。リーディング、ライティングもネイティブスピーカー教員の指導を受けることによって、バランスの良い 4 技能型の英語が身につく。中学校では、英語上級者向けの 2 コースを含む 3 コースを設置。中 1 の DD7 では、英語 10 時間のほかカナダの理科科目を含む週 17 時間のオールイングリッシュの授業があり、加えて日本の数学と理科も行われる。Advanced7 では英語は同じく 10 時間だが、理科科目は日本先取り教育をベースに授業が行われている。英語初心者向けの Starter7 ではネイティブ教員による 7 時間の英語と日本人教員による 2 時間の英文法が行われており、その中でも生徒のレベルに合わせたクラス分けがされている。Starter7 の生徒も英検 4 級レベルの審査に合格すれば、中 2 から Advanced7 に続く DD 準備 8 に進むことができる。高校では、完全バイリンガル教育である DD コースのほか、特進コースと進学コースを設置。DD コースでは、高 1 での 3 週間のカナダ短期留学(任意)を含め、日本とカナダ 2 つの教育カリキュラムを 3 年間並行で学び、高校卒業時には両方の卒業資格を取得する。また DD コースからは半数の生徒が海外大学に進学している。

◆ 講師・発表者・指導員（順不同） ◆

Ross Malcolm	ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー
松 谷 茂	学校法人文化杉並学園理事長
青 井 静 男	文化学園大学杉並中学・高等学校校長
大 久 保 素 子	文化学園大学杉並中学・高等学校国際部部長
吉 田 晋	富士見丘中学高等学校理事長・校長
平 方 邦 行	一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長

◆ 特別委員・指導員（順不同） ◆

平 方 邦 行	一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長
大 久 保 素 子	文化学園大学杉並中学・高等学校国際部部長
中 川 千 穂	工学院大学附属中学高等学校英語科主任
佐 藤 貴 明	ドルトン東京学園中高等部教諭
佐々木 雄 太	吉祥女子中学高等学校教諭
岩 瀬 俊 介	学校法人石川高等学校・石川義塾中学校教諭
川 本 芳 久	一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長

◆ 都道府県別参加者数 ◆

No.	都道府県名	人 数	No.	都道府県名	人 数	No.	都道府県名	人 数
1	北海道	3	17	石 川	1	33	岡 山	0
2	青 森	1	18	福 井	0	34	広 島	0
3	岩 手	2	19	山 梨	0	35	山 口	2
4	宮 城	2	20	長 野	0	36	徳 島	0
5	秋 田	0	21	岐 阜	0	37	香 川	0
6	山 形	0	22	静 岡	3	38	愛 媛	2
7	福 島	2	23	愛 知	2	39	高 知	2
8	新 潟	0	24	三 重	0	40	福 岡	1
9	茨 城	2	25	滋 賀	0	41	佐 賀	0
10	栃 木	0	26	京 都	0	42	長 崎	0
11	群 馬	0	27	大 阪	0	43	熊 本	0
12	埼 玉	0	28	兵 庫	0	44	大 分	1
13	千 葉	5	29	奈 良	0	45	宮 崎	0
14	神奈川	4	30	和歌山	0	46	鹿児島	0
15	東 京	11	31	鳥 取	0	47	沖 縄	0
16	富 山	0	32	島 根	0	計 17 都道府県 46 名		

◆概要◆

令和6年5月28日(火)～29日(水)、文化学園大学杉並中学・高等学校(東京都杉並区)及びビジョンセンター市ヶ谷(東京都千代田区)において開催した。全国より英語科教員46名が参加し、初日は授業視察や施設見学、青井静男・同校校長による学校紹介、大久保素子・同校国際部部长による実践発表、同校教員を交えての研究協議を行った。その後2日目にかけRoss Malcolm・ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナーによるワークショップを実施した。参加者は意欲的に研修に取り組み、当部会は成功裏に終了した。

5月28日(火)

◆開会式◆

○主催者挨拶(吉田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所理事長)

文化学園大学杉並中学・高等学校の先生方に感謝申し上げます。本研修での学びを自校に持ち帰り広めてもらいたい。21世紀を担う子供たちをさらに世界に羽ばたかせる教育を実践していただけることを願っている。



○視察校代表挨拶(松谷 茂 学校法人文化杉並学園理事長)

本校は約10年前にダブルディプロマ導入に向けて動き出した。大学受験のみを見据えた英語教育では残るものがほとんどない。英語教育のあり方を見直す必要があるという思いが、本校の教育改革の出発点だ。ぜひ参加者の皆様からも屈託のない意見を伺いたい。



○研修会運営方針説明(平方邦行 英語5技能教育特別委員長)

大学入学共通テストでの英語4技能の導入が見送られてからも多くの私立学校が奮闘してきた。英語に対する意識も大きく変わってきている。昨年度、東京都内の私立高校4校だけを見ても100校を超える海外大学に合格している。こういった動きは全国に波及していくだろう。



◆視察校紹介◆

(青井静男 文化学園大学杉並中学・高等学校校長)

本校はBunka Suginami Canadian International Schoolを併設している。高校は進学コース・特進コース・ダブルディプロマ(DD)コースがある。今年の中学校入学者157名のうち、DDコース希望者は約120名だ。中学校に入学するまで全く英語を勉強したことがない生徒も、高校からDDコースに入ることができる。DDコースはカナダのブリティッシュコロンビア(BC)州と提携して設置した。カナダの高校の卒業資格を取得でき、海外大学のほか、一部の国内大学も帰国生枠で受験できる。



建学の精神は「感動の教育」。小さな感動を積み重ね、生徒の自己肯定感を高めていくことが本校の取り組みだ。教育方針は「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「国際力の育成」。21世紀・22世紀に活躍する生徒を育てるため、基礎・基本を徹底しながら、先進的な英語教育・STEAM教育・PBLに力を入れている。教員は授業中ファシリテーターに徹し、生徒が自ら調べ、グループワークやプレゼンをするというスタイルだ。全ての教科でルーブリックを作成し、考査の結果だけでなく、小テストや模試の結果、パフォーマンス課題といった普段の成果を評価している。全ての行事は生徒が立案して行っている。特徴的なのは「i-たび」と呼ぶ修学旅行だ。行き先を生徒が考えて行程を作り、旅行社の選定をしている。生徒主体のSTEAM教育はさらなるバージョンアップを検討している。

◆視察校実践発表◆

(大久保素子 文化学園大学杉並中学・高等学校国際部部长)

文化学園大学杉並中学・高等学校とBunka Suginami Canadian International School(BSCIS)、どちらも生徒主体・アクティブラーニング・PBL型という点を大切にしている。



・文化学園大学杉並中学・高等学校

「中学英語」: 英語初心者向けの授業で、ネイティブ主導週7時間、日本人主導週2時間。ペアワークやグループワークを取り入れながら、英語をシャワーのように浴びている。

「英語コミュニケーションⅡ」: 批判的思考力を育むCambridge University Press社の検定教科書、

Cambridge Experience を 2023 年度から採択しオールイングリッシュの授業がしやすくなった。ギャラリーウォーク形式でプレゼンテーションを行い、ループブックで評価している。

「論理表現Ⅱ」：週 2 時間のうち 1 時間は Writing を行う。まずは生徒に何も見ず自力で文章を書かせて、続いてツールを使いながらリライトする。その後グループになって作品を回しあい、ポジティブフィードバックをする。もう 1 時間はオンライン英会話を行っている。

・Bunka Suginami Canadian International School

カナダの授業で特徴的なのは、生徒に身につけさせたい力や最終ゴールは共通しているが、教員によってアプローチが異なるところだ。教員の得意分野や興味のあるものを使っている。

「DD Prep 9 Numeracy」：ある教員は 21 世紀型スキルの育成を重んじて授業を組み立てている。

「DD9 Math」：学習内容を生徒が好きな方法で発表している。(冊子・ボードゲーム・ホームページなど)

「DD12 Capstone」：自分の興味のあることについて、1 年をかけてメンターを付けて研究し、発表する。

学習内容と同様に、その内容をどう学んでいったのかも大切である。周囲とのコミュニケーションや、臨機応変に行動することを生徒に学ばせたい。これを忘れずに日々の授業に取り組んでいる。

◆授業視察◆

4 限と 5 限の授業を視察した。参加者からは「視察校紹介や実践発表の内容を直に見ることができ、より具体的になった」「どの先生も生徒をひきつけるための工夫がされていて、大変勉強になった」などの感想が寄せられた。



◆施設見学◆

視察校教職員の案内で校内施設を見学した。参加者からは「生徒が自ら研究できるような施設や設備が整っていた」「至る所に生徒に寄り添った、生徒のための工夫があるように感じられた」などの感想が寄せられた。



◆Workshop◆

<Teaching reading skills to Senior High School students>

(Ross Malcolm ブリティッシュ・カウンシル英語教員研修トレーナー)

Session1 Foundation session: English for teachers

Super-Recognizer(超認識力)をテーマにした英文を参加者と共に読み進めていく。生徒に英語を使う機会を多く与えることが重要だ。流れのパターンを作ることで何をしているか分かりやすくしながら、パートによって少しずつ変化や強弱をつけ飽きさせない工夫を散りばめる。



☆Introduction：「顔を覚えるのが得意かどうか」について自己紹介を兼ねて質問をしあった。

☆Reading：4つのセクションに分けて、リーディングと Q and A 活動をペアで行った。

・Part1 Violence erupts - set the scene

<STEP1> 単語の確認：英語と日本語訳を示すだけでなく、英語で定義を説明する。名詞は写真をスライドに写す、類義語との違いを説明するなど単語によってアプローチを変える。説明が終わった後には、ペアで単語を説明したりするアウトプット活動を行う。

<STEP2 Q and A> 英語を読む時間を与え、ペアで話し合いをさせる。生徒同士で英語を使わせて確認させ合う時間を持つことが大切。

・Part2 Gary the Super-Recognizer - to introduce the main character

全ての Q and A の確認に同じ時間をかけるのではなく、緩急をつけるのも重要。

・Part3 The Problem with CCTV - to explain a key challenge

単語の確認の前に内容の議論をすることで、リーディングに対する気持ちを高めることができる。

・Part4 Super-Recognizer Units - to show how Gary helps to solve the problem

これまで読んできた英文についてペアで話し合い、全体に共有する。

◆研究協議◆

参加者は少人数のグループに分かれて意見交換を行った後、視察校の英語科教員へ質疑応答を行った。

・Writing のリライトのねらいは？

→ツールを活用しながらのリライトによって新たな表現を自分で学んでほしい。友達の記事から気づきを得て、次回から取り入れてもらえたら。教員もあまり多くは直さないようにしている。

・ロイロノートの教授法はどのように共有しているか？

→教員研修で活用法を共有したり、若手教員ベースで授業の研究会を開いたりしている。

・ループリックでの評価について。

→各教科で土台となるループリックを作成した。点数にしにくい力を客観的に評価し、評価に取り入れられるように工夫されていて、今も改良を続けている。各担当者が都度変えながら使っている。

・発表活動の後のリフレクションは行っているのか？

→各教員次第だが、プレゼンテーションを動画で提出させて優秀なものを見るといった工夫をしている。

・DD の生徒達は日本人としてアイデンティティに苦勞していることはあるか？

→生徒達が自分自身を認識し、違いを尊重する手助けをしたいと考えている。アイデンティティの授業では、自分を掘り下げ、お互いを掘り下げる機会を作っている。

・対話型の授業検討会を取り入れているようだったら話を聞きたい。

→若手教員による次世代教育開発部が行っている。全体への影響はまだないが、私自身としては授業を生徒視点で考えられるようになった。継続することでより生徒主体の授業に近づけるのでは。

・DD の授業はとても魅力的なプロジェクトが多かった。どのようにアイデアが生まれるのか？

→生徒達に何を知ってほしいか、なぜ知ってほしいのか、どうやって理解させられるのか、長い時間をかけて考えている。トライアンドエラーを繰り返して生徒に正直に向き合う。教師自身が学ぶ姿、完璧ではない姿を見せることで、生徒のロールモデルにもなる。



5月29日(水)

◆Workshop◆

<Teaching reading skills to Senior High School students>

(Ross Malcolm プリティッシュ・カウンスル英語教員研修トレーナー)

Session2 Pedagogy session: Teaching reading at Senior High School: Demonstration + analysis

☆どのような Reading Skills が求められているかを考える。流暢に読む力が大切になる。

そのためには、素早く読み自動的に理解できるようになること、文の構造も素早く理解できるようにすること、戦略的に読んでいくことが求められる。このような観点に立って繰り返し読むトレーニングを行っていく。サポートのある環境で読みづらい英文を理解する機会を持つことや、読み方を教わることで、繰り返し音読をすること、ひっかけのある問題を通して自信を持って読めるようにすること、多読を行うことが効果的だ。



☆模擬授業

絵から何を読み取りたくなるかを考える。本文を追わせながら講師が読み上げ、途中で止めて単語の説明を挟む。この指示を細かく明確にすることにより生徒の意識が保たれる。自分でもう一度本文を黙読する機会を設け、事前の疑問にいくつ答えを見つけられたかをシェアする。読み取ったことを絵にする、教員が事前に調べた背景知識を紹介してのペアワーク、自身のことについてペアで話して全体で共有するといった活動を行う。その後、読んだ内容を思い出しながらリテリングを行う。

Session3 Pedagogy session: Teaching reading at Senior High School: Workshop + Micro-teaching

☆Pre-reading : 4 技能を統合した効果的な質問を予め考えておく。

What are the main points of the text?

What are the barriers to my students understanding the text?

How can I make students curious about the text?

☆Main points of a text : テキスト理解に重要な情報を、事前にどれだけ生徒たちに伝えるか。

読む前に与える情報は、生徒の興味関心を上げるのに適切な量と質に配慮する。

☆Vocabulary：単語の知識は、読解における基礎となる。

生徒に単語を導入する際は意味だけでなく、音にも注意する。抽象的な概念を扱うときは、母国語を使っても良い。

☆Background knowledge：背景知識をどれだけ事前に与える必要があるのか。

英語力・読解力が高くとも、背景知識が不足していると理解できないこともあれば、英語力・読解力が低くとも、背景知識があることで英語力や読解力を補うことができることもある。

☆Tricky sentences：理解が難しい・紛らわしい文の扱い方。

文が長ければ要素で分解して理解を助ける。生徒が自立して自身の力で読解できるよう配慮する。

☆Making students curious about a text：生徒の興味を惹きつける。

有名でない教材を扱う際には、生徒自身に質問をペアで考えさせる。ペアで行うことで全ての生徒が考え、活動に従事することになり、テキストを読む機会を創出できる。

☆Reading：読む前に鍵となる質問をして効果的に読解できるよう、以下の点に気をつける。

生徒が読みたいと思えるようなテキストか。次に何が起きるのか予測する練習をするにはどこが適切か。生徒の理解をどのように確認するか。

◆研究協議◆

- ・生徒が英語に興味を持っていない場合どうすべきか？
生徒によって興味は異なる。言語学習を困難に感じる生徒もいるが、彼らが躓くポイントを取り除く姿勢を見せることで、生徒との関係が良くなり、授業も進めやすくなる。
- ・今回は Intensive Reading だったが、Extensive Reading についてもアドバイスを聞きたい。
Graded Readers を勧める。学校になれば学校外のどこで入手できるかを案内する。
- ・生徒のレベルに合っていない場合、テキストをどう扱うか？
B1-B2 レベルの生徒は、授業中に読み、クラスメートと意見を交わし、理解を深めていくのが良い。
- ・英語が苦手な生徒への対応はどうすれば良いのか？
単語や背景知識の扱いなど、明示的に授業を分解することでついて来られるような足場かけを行う。
- ・長い文章や多くの量を読ませる場合の授業方法について。
掛けられる時間の中で授業のデザインを変えれば良い。ポイントを絞って授業を考える。
- ・中学1年生を担当しており新出単語をたくさん覚えさせる必要があるが、どうしたら良いか？
ディクテーションやペアワークなど様々な活動を用意する。活動の中で、覚えるべき単語に触れる。

様々な年代の生徒を教えてきたが、クラスルームマネジメントが重要な鍵であると認識するようになった。生徒の学習環境を整えるのに必要なルールを教師が明確に示すことが大切だと感じている。



◆閉会式◆

○総括（中川千穂 英語5技能教育特別委員）

研修を通して沢山の知識や仲間を得られただろう。質疑応答では自分の学校でどうしたら良いかという質問が多くあった。焦らずに少しずつ進めてもらえればと思う。急に大きく変えるのではなくて、小さいことから学校に戻って実践してもらいたい。



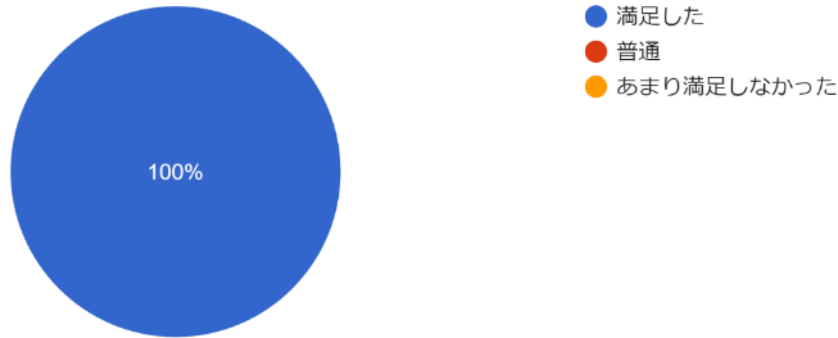
○挨拶（平方邦行 英語5技能教育特別委員長）

当研究所では教科研修を実施していないが、英語に関しては状況を鑑みて特別に実施している。今後の研修会についても確定次第ご案内する。各学校が英語に対して危機感を持つようになっている印象がある。ぜひ研修会での学びを学校に持ち帰ってもらいたい。



◆参加者アンケートより◆

○当研修会にはどのくらい満足されましたか。



○視察校紹介について

- ・私学としてどのような点を強みにしているのか詳しく知ることができた。
- ・より良い教育プログラムを提供するための工夫をされている点に感銘を受けた。
- ・先端を拝見し、これを遠くの理想として終わらせずに少しずつ変えていかなければと強く思った。

○視察校実践発表について

- ・学校全体で改革に対する意識が共有されていて素晴らしかった。
- ・使用教材や実践の方法など、参考になる情報が多くあった。
- ・ライティングのアウトプット頻度を高めたいと思っていたため、生徒間のギャラリーウォークやリライト方法が参考になった。

○視授業視察について

- ・視察校紹介や実践発表の内容を直に見ることができ、より具体的になった。
- ・少人数で能動的に取り組ませることが実現しており、理想的な形であると感じた。
- ・どの先生も生徒をひきつけるための工夫をされていて、大変勉強になった。

○施設見学について

- ・廊下もうまく使っているのが都会ならではのと思った。
- ・生徒が自ら研究できるような施設や設備が整っていた。
- ・至る所に生徒に寄り添った、生徒のための工夫があるように感じられた。

○研究協議について

- ・各校の取り組みや悩みを共有して、自分は1人ではないのだと思うことができた。
- ・他校の実践例や授業見学により、自分自身の授業や運営を考え直すきっかけとなった。
- ・多くの先生が自身で勉強を続け、進化し続けている様子にとっても刺激を受けた。

○Workshop について

- ・授業で使える内容が多くあった。戻って実践してみたい。
- ・やはり対面研修に勝るものはない。自身の指導法を改めて見直す機会になった。
- ・実際の入試と自分が実践したいことのギャップを埋められずにいたが、イメージが湧いてきた。